

## 「令和4年度 第3回境港市みんなでまちづくり推進会議」会議録

【日 時】令和4年7月29日（金）18:30 ~ 20:40

【場 所】境港市保健相談センター 講堂

【出席者】松本幸永（会長）、畑本愛（副会長）、三原真由美、吹野真彩、吉田明広、  
足立勲、舛岡彩子（7名・敬称略）

【欠席者】井上竜輔、藤中誠也、遠藤緑、渡辺博美、松田真二（5名・敬称略）

【傍聴者】なし

【事務局】小川博史（地域振興課長）

立花順平（地域振興課長補佐兼企画係長）

竹本夏樹（地域振興課企画係主任）

【アドバイザー】毎熊浩一（島根大学法文学部教授）

【会議要旨】 別紙「意見まとめ」参照

【日 程】1 開会

2 今期の取組テーマについての協議

3 アドバイザーからの話題提供

4 ワークショップ

5 事務連絡・閉会

### 1. 開会

〔事務局〕（開会、出欠状況報告、本日アドバイザーが参加されていることの紹介）

〔会 長〕（挨拶）

〔各委員〕（今期の会議にアドバイザーが初めて参加されたことから簡単な自己紹介）

### 2. 今期の取組テーマについての協議

〔事務局〕（事務局で用意した資料により、前回までの経過を説明）

- ・前回の会議で、「地域の会議などに特定の人しか集まらない」という意見。これらの背景として、「自分ごと」をキーワードに据えてみた。
- ・どうすれば、一人一人が、まちづくりに関心を持ち、参加をしてもらえるのかワークショップで話し合いながら、出た意見を今期のテーマとして取り組んではどうか。

〔事務局〕

- ・アンケートや会議で、特定の人しか集まらず、毎回同じ顔触れになるという指摘
- ・委員から出た「車がなくても困らない」という課題も、車に乗れる人は困っておらず困るのは車の乗れない高齢者だったりするなか、市民全体に共通する課題として議論ができていないテーマがある。
- ・背景として、他人ごとと思ってしまう人が多い中で、議論ができていないと想定。この会議は、「みんなでまちづくり」が根底になって立ち上がった。

- ・議論にあたり、「みんなでやっていくにはどうしたらいいか」にスポットを当ててはどうかと考えた。

### 3. アドバイザーからの話題提供

[每熊アドバイザー]

- ・今日のミッションはテーマを決めること。そのためにこの会の原点を振り返る。
- ・会の名称の「みんなでまちづくり」について、「①みんな」と「②まちづくり」どっちが大切か？ 挙手⇒①5名、②2名

[委員] (②の理由)

- ・「みんなで」はほぼ不可能なので、「まちづくり」の方が大切。

[副会長] (②の理由)

- ・全員の希望を聞いていたらまとまらない。議論しているだけで現実が進まなければ意味がない。

[每熊アドバイザー]

- ・市役所の機構は、市長をトップに各部署で業務を行っている。まちづくりのイメージは、例えば、産業部の観光振興課が観光でまちを元気にする、あるいは水産商工課が水産業でまちを元気にするみたいな話。簡単に言うと縦割りのまちづくり。
- ・この会議が大事にしたいのは、観光も子育ても教育も大事だけど、そこに共通する「どうすればみんながまちづくりに関わってくれるか」と考えること。横のイメージ。
- ・観光、教育、子育てそれぞれについて考える会議は総合計画審議会。縦について考える会議はそちらに任せる。
- ・みんなでまちづくりというのは、行政だけでなく、自治会、学校、子ども、PTAとかいろんな民間の担い手と一緒にやっていくということなので、それを全体でどのようにしていくか、どんなテーマであれ考えていく必要がある。
- ・条例上、本当に「みんなでまちづくり」が行われているか確認することが役割として記載されている。
- ・今年は、境港市みんなでまちづくり条例施行から15周年。条例の素案ができたときに、理想は「条例が廃止されること」とコメントした。「みんなでまちづくり」が当たり前になること。今、どのくらい当たり前になっているか。
- ・みんなでまちづくりの進捗状況、地域振興課の自己評価は全部A評価だが、行政活動への参加を求める条項、参加の機会を請求する条項があるが、まだ使われたことがない。この条例は使われていないし、知られていないのではないか。
- ・松江市で原発再稼働の是非を問う住民投票をするように請求したが、議会は否決。もし松江市にみんなでまちづくり条例があったら、参加の機会を請求する条項を使うことができた。
- ・この条例は使われていないし、知られていないのではないか。この条例の行政参加の方法、その他適切な方法の「市民陪審制」が特にウリ。

無作為抽出で市民に議論してもらう方法。この方法を当時から入れ込んでいるのは斬新なこと。無作為抽出で市民に集まってもらってまちづくりの重要なテーマを議論してもらう方法は世界的に広がっている。境港市で条例制定された頃から世界に広がり始めた。

- ・松江市では、無作為抽出で集まった市民による「自分ごと化会議」が開催されて、毎熊ゼミで関わった。松江の原発について話し合った。無作為抽出の良さは、テーマの関心度合いが分散される。
- ・境港市でも無作為抽出の手法が使われれば、いつも同じ人しか集まらないということにはならないかもしれない。
- ・以前、境港市でもまちづくりの「ものさし」を作成するワークショップを実施した。実際にこれを使って評価したということはなかった。ものさしを作って終わってしまったので、もったいないと感じている。
- ・「若い世代の行政参加」についてのワークショップも報告書を作って終わってしまった。若者に対するアプローチを一步踏み出しても良かったと思う。
- ・みんなでまちづくり条例は、ひとりでも多くの人に関わっていることが前提であるが、「みんなで」ということを強制しないようにすることがウリにもなっている。それぞれの人に事情や関心があるので、それに応じた等身大の参加を大事にしていきたいと思います。ということがモチーフになっている。
- ・これから「自分ごと」をキーワードに話し合っただきつつ、テーマを見つけていきたいと思う。自分の「自分ごと化」談及び他人の「自分ごと化」論について話し合ってください。

#### 4. ワークショップ

[事務局] (ワークショップの方法について説明。その後の協議・休憩は約30分)

[事務局] (協議内容、出てきた今期の取組テーマについて、各班に発表を求める)

##### [第1班 会長]

こちらの班ですが、「自分ごと」について、次のような話をしました。

- ・交通に不便を感じている。
- ・補助金の審査について知って、自分の活動に活かしたいと思った。
- ・地域の活動に参加・参画して、自分や参加してくれた人がいい思いをする。
- ・自治会の役員などをやる機会を作る。いざやってみると「やるじゃない！」と言われる。
- ・人からほめてもらったり、喜んでもらったりするとモチベーションが上がる。
- ・何らかの手当てがあったり、ありがとうと言われていたりするとやる気が出る。

テーマの提案としては、「自分ごと化のきっかけは？」と、これは私の意見ですが考えました。「やらせる」とか、「興味を持たせる」とか、「ご褒美を渡す」とか、3つほど上げてみました。以上です。

〔第2班 副会長〕

こちらの班は、立場や年齢が違う4人が話し合った結果、それぞれの興味がある自分ごと、興味がない他人ごと、年齢、性別、立場によって全然違う意見が出てきました。それを見たときに思いついたのが、無理に一つのこと無理やり興味を持たせるという入り口ではなく、それぞれに興味があることや活動をどんどんしてもらって、その興味のある分野をつなげて一緒に活動するようなイベントとかを企画して、それぞれに得意なことで楽しんでいると相乗効果でまちづくりが進む仕組みになれば、無理やり自治会活動に参加するとか、若者のイベントに高齢者に入ってもらおうとか、そういうことをせずに好きなことをやっているうちにまちづくりが進むのではないかと、ということでした。

この意見のきっかけになったのが、ゴミ拾いのイベントとジョギングのイベントを一緒にやったら人が集まって賑わったという話題が出て、ゴミ拾いとジョギングに興味がある人が集まって一緒にイベントをやれば、興味をつながりが起きやすくなるから、興味がある分野をつなげられる仕組みを考えていったらどうかということに意見がまとまりました。

テーマとしては、興味がないことに無理に参加させずに、好きな活動同士が別のグループと関わることで生まれる「巻き込み型の相乗効果を期待したまちづくり」、「活動がつながる、活動をつなげるまちづくり」をするにはどうしたらいいか？ということテーマとして掲げてみてはどうかということがこちらでまとまった意見です。以上です。

〔每熊アドバイザー〕

ありがとうございました。皆さん、それぞれの発表を聞かれていかがでしょうか。

〔委員〕

それぞれのいろんな立場の人がいるので、それぞれがアクションを起こしてつながっていくことが大事ではないか。

〔每熊アドバイザー〕

現状では、今話されたようなことは十分にできていませんよね。何が障害になっているんでしょうか。逆に言うと何があるとスムーズに進むのか。

〔委員〕

コーディネーターがいればスムーズに進むんでしょうけど、そういうコーディネーターが境港にはいないということがあられるかもしれません。

〔每熊アドバイザー〕

そういうコーディネーターさんは、ちょっとはいるんですよね？

〔事務局〕

コーディネーターという役職でいうと、コミュニティ・スクールで各中学校区に地域学校コーディネーターが配属されています。

コーディネーターという職名で言えば、その他に境港市社会福祉協議会にも生活支援コ

ーディネーターがおられます。

まちづくり全般に関わるコーディネーターはおりませんが、それぞれどこかとどこかを  
つなげるコーディネーターは近年少しずつ配属されるようになってきています。

[每熊アドバイザー]

ここに集まっている委員の皆さんもそのような立場の方ですよ。というのが今の現状  
ですよ。けど進まない。例えばもしこのテーマで進めるとしたら、そういう人がいる  
かどうかを見える化する必要がありますね。

他にご意見がある方はおられますか。

[委員]

巻き込み型で言えば、うちの子は、「ゴミ拾い」と「お金」なんです。家の草取りとか  
も一袋何円とか、そうなるめっちゃ拾うなと思う。

[委員]

ゴミ拾いのイベントで人が集まるのは不思議。

[每熊アドバイザー]

ゴミ拾いだけでは集まらないから、ジョギングと掛けたんですかね。

[委員]

これは、日本海新聞の記事でありました。ゴミ拾いとジョギングを合わせたプロギング  
が注目を集めている。鳥取県で初めて、境港市の弓ヶ浜公園から往復3.5kmのコースで開  
催された。約30人が参加した、とのこと。

誰が発案したかは記事には書いていない。これで30人は少ないかと思う。境港市でゴミ  
拾いをするなら数百人集まるはず。ただ、この記事に興味があって、子どもを対象として  
いるのではと思い、取り上げさせてもらいました。

[每熊アドバイザー]

このこともそうですが、お金であったり、ほめられたり、モチベーションの元となるも  
のがあるはずなんです。それもたぶん組み合わせられるときに大事なことです。

ジョギングは趣味なので、走っていて楽しい人が集まる。そういう風にモチベ  
ーションの元となるもの、できることとか、特技とかを組み合わせると、増幅して相乗効果  
が生まれるかもしれませんね。

それが今なぜできないんでしょうか。コーディネーターがいないとか。

[副会長]

そもそもつながる発想がない。他とつながる必要性を感じたことがない。そういうイベ  
ントをいくつかやると他とつながる考えが浮かぶかもしれない。

[每熊アドバイザー]

今日は答えを出す必要がないので、たくさんの方が出たらいいと思います。今日の話が皆さんの関心をそそる問いになればいいと思います。「巻き込み型、相乗効果のまちづくりにしていくための仕組みづくり」みたいになると皆さんから問いがでてきますか？

この推進会議でこれを進めていくために、調べないといけないこととか。

[委員]

コーディネーターがいるかどうか、自分の好きなことと別の方が好きなことをつなげたいと思っているかどうか、つなげたことによってどういったメリットがあって、どういう風に発展させていくことができるか、そういったことが明らかになれば、いろいろ考えてくれる人が増えるかなと思います。

[每熊アドバイザー]

大学で言うと、意向調査と事例研究ですかね。皆さん、他にありますか？

例えば、こちらの班にグループワークのときに話していたんですけど、この会議では3,000円の委員報酬があって、自治会によっては会長に手当てがあったりなかったりとか、金額が違っていたりとか、そういうのがわかったらおもしろくないですか。

それもきっかけ、モチベーションですよ。

先ほど無作為抽出の話をしましたけど、松江でやった自分ごと化会議は、交通費500円しか出せていないんですけど、世界的にやっているミニ・パブリクスという会議はちゃんとお金を払うというのが原則なんです。ドイツの同じ仕組みがあるところでは、市民参加のベンツと呼ばれている。つまり高い。でもこれも必要なコストなんですよ。お金の話は忌避されやすいですが、何を調べるかこれから考えるにしても、一つの狙いとしてかかるお金を明らかにするというのはアリかもしれませんね。

体験談として、自分がこういうことをしていくらもらったという話はあってもいいですね。他にありますか。事務局いかがですか。

[事務局]

個人的には、「つながる」とか「コーディネーター」とかテーマに入ってくると面白いと思います。自分が思い描いていなかったことがつながる、発見とか喜びとか、それを自分も感じると同時に、それぞれ別だと思っていた人たちがつながることで新たな楽しみを見つけることにも喜びを感じます。

また、あえて今まで避けてきていたお金にフューチャーするというのも大事ではないかと思いました。

[每熊アドバイザー]

「みんなでまちづくり」の「みんな」がそれぞれですので、いろんな人を巻き込むため

にはいろんなきっかけとかエサとか、ここで義務化という話もありましたが、鞭とかそういうのが必要ですね。

今、どういうのがあるのかりサーチして、足りないことがあれば付け加えるとか、そういう調査、提案になっていくといいのでは。それでいけそうですか。

[事務局]

正直、想定はしていなかったのですが、面白いアイデアだと思います。

参加の場を作るといっても、過去の提言がそのままになっているということがあります。そこにモチベーションを加えることを見える化して、動き出す条件を生み出す。アイデアに火をつけて動かしていくという意味では新しい視点だと思います。

[每熊アドバイザー]

これって私が最初にお話しした「横」の話ですよ。どの分野にも当てはまるような「エサ」とか「モチベーション」とか「仕組み」とか。

途中で実験できるといいかもしれませんね。ジョギングとゴミ拾いとお金と。

副会長さんいかがですか？

[副会長]

すごくワクワクします。例えば、境港市内の企業に協力をお願いして、企業のアピールの新製品の試供品を配るとか、お米1kg配るとか。

企業PRにもなるから、企業が出してくれるとうまくいきそう。トライアスロンのときとか各企業が自分の商品をふるまったりするじゃないですか。そういうのワクワクしますね。

[委員]

町内会の三役を強制的に変わってもらって、責任を持たせて自分ごとにするというのをやってもらっていたんですけど、逆に与えて参加してもらって自分ごとにするっていう手もありますね。マイナスで責任を持たせるということではなくて、モチベーションを与えることによって自分ごとにしてもらう。

[每熊アドバイザー]

実際に皆さんいろんなことをやられて、例えば私はPTAが長くて、PTAものすごく嫌がられますけど、多くの方は「やって良かった」と言われるんですよ。二度とやりたくないとおっしゃられるけど。「やって良かった」の何が良かったのか共有できると、他の人のハードルが下がる。参加しない人の忌避する理由として、何をしているかわからないということがあったので、仕事内容を一覧にしたんですよ。そうするとちょっとハードルが下がった。そこを明らかにして共有することから始めてもいいかもしれませんね。

何となくいけそうですかね、会長さん。

[会長]

私が自治会長をしていたときは、各係で何をやるのか聞かれて、それを文書にした。た

だ、書いてあることだけじゃないですよ、と一言付け加えました。臨時でお願いすることもあります。やっぱり見える化ですね。これならできそうだなと思ってもらえるように。

〔委員〕

ちょっと課長さんにお尋ねしたいのですが、健康推進課でやっている献血は足りているんですか。なぜお聞きしたかという、市報に年に2回ほど「献血をお願いします」と書いてあるんですけど、ただそれだけで、我々が民間の会社にいたときは献血カードというのがあって、年に1回か2回くらいすると判を押してもらって、10回すると何かもらえたんです。それはしてないんですか。

〔事務局〕

市がやっているわけではないですが、今は献血をすると「献血ポイント」というのが貯まるようになっていまして、いろんな粗品が交換できたりします。

〔每熊アドバイザー〕

自分がしたことの見返りが累積していったということですかね。献血じゃなくてもいいですね。いろんな「みんなちポイント」みたいな。「みんなちポイント」つくりましょうか。

〔委員〕

そういうのがあれば、さっき言っていたゴミ拾いの活動とか、いろんなことに活用できるんじゃないですかね。

〔每熊アドバイザー〕

島根大学はあるんですよ。ビビットポイントっていう、人助けしたら無茶苦茶高いポイントがもらえる。そういうシーンはなかなかないけど。

例えば、この会議に参加すると10ポイントもらえて、生協で10円分使えるとか。

時間が過ぎてしまいましたので、今日の議論で出たようなことをこれから1年半かけて深めていけたらいいですね。

〔事務局〕

参考までに、今の話を聞いていて思い出したんですが、ゴミ出しが大変な高齢者世帯に対して、自治会がゴミ出しを支援すれば、1世帯200円、金額はちょっと正確ではないかもしれませんが、支払われる。市が予算を組んでいて、自治会がそういう活動をするんだらという。ただ、おそらく聞いたことがない方が多いでしょうし、実際にそれが使われていないというのが現実で。それをどういう条件にすれば使ってもらえるか。市としても用意はしたけれども使われていない制度というのもある。今回の議論がいろんなことにつながるのではないかと思います。



[每熊アドバイザー]

ありがとうございます。では、これを何となくテーマにということで。どうまとめるかは、また後で工夫しましょう。ということで事務局にお返しします。

[事務局]

それでは以上で、ワークショップを終了いたします。ありがとうございました。

## 5. 事務連絡・閉会

[事務局]

次回の推進会議ですが、既にご案内しておりますが8月10日水曜日に開催します。8月4日木曜日までに審査表の提出をお願いします。

以上で、第3回みんなでまちづくり推進会議を終了します。皆さん、長時間に渡り、ありがとうございました

<閉会>